

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900618		
法人名	社会福祉法人 京都老人福祉協会		
事業所名	グループホーム醍醐の家ほっこり (あさひフロア)		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐南里町30-1		
自己評価作成日	令和4年11月13日	評価結果市町村受理日	令和5年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiogyosyoCd=2670900618-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主治医、訪問看護師、事業所内の看護師等と情報共有ができており、些細な変化にも指示を仰ぎ助言をもらえる体制がある。看取りを希望される利用者様やご家族が、安心して最後の時間を過ごしてもらえるように多職種との繋がりを最大に生かし支援する体制がある。ご家族との信頼関係の構築の為に、コロナ禍ではあるが感染状況に応じて対面での面会やZOOM面会を実施し、定期的に連絡し日常の様子等を報告し要望などを伺っている。食事に関しては、管理栄養士が考案した季節感や健康面に配慮した食事やおやつを提供している。事業所内に管理栄養士が常駐しており、個々の身体の状態に応じた食事について相談する事ができ、週に何度かは当日に調理した出来立ての食事を提供している。事業所内のDSや小規模からGHIに入所される方もいるがサービスは変わっても馴染みの職員との関わり合いや繋がりを継続できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	着任研修(新人オリエンテーション)や法人研修の中で学びの場を設けている。また玄関や事業所に理念を掲示して常に意識し実践に繋げるようにしている。毎年スローガンを掲げており今年度は「穏やかで笑顔と楽しみのある毎日をいつまでも」として職員一同で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し運動会や地藏盆、夏祭り等の行事に参加したり、避難訓練に地域の方に参加して頂いていたが、コロナ禍で現在は参加を見合わせている。醍醐の家の広報誌で地域のお店を取材して取り上げたり、地域や学校に配布し、地域の一員として顔なじみの関係が継続できるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ(オレンジサロン)を毎月1回開催していたが、コロナ禍のため現在は開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さま一人一人の状態報告や事故報告等を行い、意見や希望、要望等を伺いサービス向上の機会となる様努めている。また年1回、入居者さまへ提供する食事を実際に提供し、試食会してもらおう事も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には連絡、相談を行なうようにしている。運営推進会議報告書の中には、グループホームの取り組みや事故報告等も記載しており、議事録を届けている。介護保険等で不明点があればその都度相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在4名センサーマットを使用している。毎月会議の中で必要性について検討している。センサーが鳴ることでその方を抑制することのない様要望を伺い思いに沿えるよう支援している。設置については今後もご家族の意見を伺いながら検討していく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人での必須研修、また事業所内での研修も毎年行い、職員に周知を徹底している。人権意識を高め尊厳を守れるよう言葉使いや介護方法についても指導をしている。個別ケアを推進する中で、状況に応じて複数の職員で関わることで、虐待に繋がることのない様工夫を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方には成年後見人を適用している。(2名)法人内での研修を実施し学ぶ機会を設けている。家族さまから相談があった時に制度の活用ができるように関係機関と連携していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書、入居契約書に沿って丁寧に説明し理解していただけるように努力している。制度改定時には、書面を作成し、合わせて運営推進会議や個別に連絡し、丁寧に説明する様に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族代表からの意見を反映出来るよう取り組んだり利用者満足度アンケート調査を実施して遠慮なくご意見を頂けるシステムを作っている。コロナ禍で家族会を開く事ができていないが、アンケートのフィードバックは、結果を集計し改善点を明確にして、改善を実施した内容を掲載したものを配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットでの会議で職員からの意見や提案を聞き取っている。また当日参加できない職員には書面での意見や提案を確認し、運営に意見を反映できる様にしている。 他にも毎日行うカンファレンスでも意見や提案を行い、早めに反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を把握できるように、定期的に行っている個人面談や、マナー接客チェックシート等で個人評価も含めて把握し、モチベーションを高めてもらえるような支援を心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の主催する研修や職員の力量を見極め必要性に応じ参加を促している。またOJT研修も推奨し成長をバックアップしている。法人内で実務者研修、介護支援専門員受験支援講座を行っており、グループホームの職員も参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協議会、京都府地域密着型サービス事業所協議会、京都府グループホーム協議会に加入し研修会や会議等で情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の相談に対しては、不安を受け止め、一緒に解決していくように思いを傾聴し答える様にしている。希望時には見学や体験入所をして頂いている。面接でご自宅に訪問する際には複数の職員で出向き、多面的に捉え、支援が出来るように心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居まで何度も電話でのやり取りを行い、ご家族の希望に添えるよう配慮している。利用者の今まで過ごされてきた生活環境を知ることによって全人的な理解に至るように心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅や施設のケアマネージャー等入居前の担当者と密に連絡を取り必要に応じて他サービスの状況や個別相談に丁寧に対応している。ご家族の思いやご本人の状況を踏まえ現段階でどのサービスが必要であるか常に利用者本位を優先してアセスメントを実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のこれまでの生活を知り得意な事、望みを基本に支えあう関係作りをしている。一方的な支援でできることを奪うのではなく主体的な生活ができるよう支援を心がけている。役割を持ち感謝の気持ちを伝え合う事でやりがいや楽しみを持って生活して頂けるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年3回開催し、本人と家族、また家族同士の交流が定期的に行なえるようにしていたがコロナ禍において実施できず。対面面会ができない時はZoom面会を実施し、ご家族との関わりを途絶えさせないよう取り組んでいる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会可能な状況であればご家族様との関わりだけではなく、ご友人も面会したいなどの要望があれば、気兼ねなく来所頂くようお願いしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や趣味などを把握して席位置を考え、同じテーブルにて過ごしてもらい職員も共に関わり合いを持ち、関係をスムーズ築けるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後は職員で看取りケアの振り返りを行い、ご家族へのお便りとしてまとめた物を郵送している。支援中もご家族の精神的なフォローをするように努力している。関係性が繋がりが醍醐の家別のサービスをご家族が利用されるなどつながりの大切さを実感している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの希望を出来るだけ丁寧に聴取している。本人に聞くのが困難な場合もセンター方式等を活用し、本人の思いを汲み取りながら必要な支援を検討している。グループホームに入居されるにあたり本人の生活が大きく変わることがない様ありのままを受け入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴や病歴、地域との関係等できるだけ詳しくお聞きし価値観やこだわり等にもれ触れ本人の意向の把握に努めている。関係のあったサービス事業所や専門職より情報を得て、切れ目のないサービスで生活に支障がない様心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝まで利用者のペースで支援できるようその人らしさに着目し、アセスメントしている。心身状況の把握も場面に依りて観察し、本人の強みを生かしたケアの実践に努めている。自分らしさを消失されることのないようにするにはどのような働きかけがよいのか職員間で繰り返し話し合いを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア担当と、ケアマネジャーが中心となり、本人、家族の意見や意向を聞き取り他職種で介護計画を作成している。また毎月のユニット会議でもモニタリングを行い、状態に変化があった時は随時対応している。医療と連携を強化し、報告、連絡相談を密にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った個人記録を活用し、些細な変化も捉えることで状態改善に努めている。毎日のミニカンファレンスの結果も情報共有できるように日誌に記録し、日々のケア実践や個別援助計画作成にも活かしている。職員間で連絡ノートを作成し情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときの状態やニーズに対応し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。具体的には日常の不足品が生じた際や通院が生じた際など、個々の家族状況に応じ、職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域の商店や喫茶店には出かけていないが、コロナが落ち着いた頃に散歩で出かけた際に、同じ町内の方たちと出会った時に挨拶を交わすようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を引き継ぎ受診の支援を行っていた。日々主治医と密に連絡をとり、必要時には相談し、情報共有に努めている。受診は原則本人、家族の意向を尊重しているが、場合によっては訪問診療を提案する場合もある。入院の必要性があるときには主治医と診療所、病院が連携できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日、日誌に必ず目を通し、介護職員も変化があった利用者の情報は必ず口頭で訪問看護師、事業所内看護師に相談しながら健康管理を行なっている。訪問看護師は細やかなアドバイスをする等職員への指導も実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し病院に提出し、詳細は口頭で報告している。必要に応じてカンファレンスにも参加し、退院後スムーズにグループホームへ戻れるようにしている。できるだけ入院中も訪問し、看護師や主治医と話をする機会を持ち、関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの意向書の作成、重度化したときの対応等、家族、主治医、専門職の職員とで繰り返し話し合いを持ち方針の共有化を図っている。またグループホームでする医療は限られている事も家族に説明を行い、書面にて了承を得てターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にAEDを設置し事業所内研修として普通救命救急講習を職員全員が受講している。緊急時の対応についてはマニュアルを作成し冷静に行動が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管轄の消防署と避難訓練（日中と夜間）を年2回実施している。災害対策として各フロアに非常食や備品を確保し水防法に対する訓練（発電機の使用法やハザードマップの確認など）は年1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や外部研修に説教的に参加し、それぞれの人格や認知症の症状や違いなどを学びつつ、ケア向上委員会では個人の尊厳やマナーについてチェックシートを年2回活用し自身を振り返り意識を高められる取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わり合いの中で利用者さまと寄り添う事を大切にしている。利用者さまが思いを表現しやすい環境作りや気持ちを汲み取る事を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れはあるが利用者さまの気持ちや身体の状態に合わせて過ごしていただいている。コロナ禍ではあるが感染状況に応じて買い物や散歩を希望される方には、できるだけ添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのスタイルを継続してもらい個性を大切にしている。具体的には入浴後に着る服を利用者さまに選んでもらったり購入時は好みの色を見て決めてもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本体施設から配食されるが事業所内に管理栄養士が常駐しているので週に何度かは出来たての食事やおやつを提供している。利用者さまとの食事作りが困難になっているが感染症対策を徹底し簡単なおやつ作りなどを行い娯楽の時間を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録にて毎日残している。個々の食事形態の工夫や摂取量の低下や体調の変化が見られた時は言語聴覚士や管理栄養士に助言をもらったり場合に応じて捕食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを実施している。利用者さまの口腔内の状態に応じて歯科医師や歯科衛生士に相談し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくリハビリパンツや大きなパッドを使用せずに快適に過ごしてもらえる事を心掛け個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄する事を基本としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な範囲で身体を動かし水分補給やオリゴ糖やヨーグルトなどを活用し薬に頼らず規則正しい生活を送れるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さまの気持ちやペースに合わせてながら週3回以上の入浴を実施できている。入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯など季節感や温泉の気分を味わってもらえる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別スペースやソファを置くなど利用者さまにとって心地の良い空間や居場所を作っている。夜間帯は空調や雑音などに配慮し安眠を確保できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さまの薬表をすぐに確認できる場所に保管し、どんな薬を服用されているか把握するために定期的に目を通すようにしている。身体の状態の変化などがあつた場合は主治医、看護師、薬剤師に相談を行い助言をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節や祝い事など年間行事を起案し実行している。食の楽しみを感じてもらうために食べたい物を個々に聞き出し提供している。事業所内に週1回移動販売車が来るので自身で買いたい物を見て選んでもらい購入し気分転換の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出が難しくなっているが玄関前のベンチに座つて外気浴をしたり希望に応じた買い物や近隣に散歩に行つたりし短時間ではあるが屋外に出る楽しみを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個々の所持金は金庫で預かっているが希望の購入物があれば一緒に買い物に行ったり配達にて納品してもらい支払いが困難な利用者さまは職員が代わりに支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染状況に応じて対面での面会やZOOM面会を活用している。利用者さまの希望があれば電話を繋ぐ対応をしている。耳の遠い利用者さまには会話が伝わるように職員が橋渡しも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の空間では照明は場所に応じて不快感がないように電球の色を変えたり空調やTVの音量やなどを配慮している。リビングにて飾り物は写真を貼り季節を感じていただける工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時やゆっくりくつろぎたい時は周りを気にせずに過ごしてもらえるパーソナルスペースを所々に作っている。時には他者のも交流の場としても活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に以前と同じ環境に近付けられるように使い慣れた家具や衣類を持参してもらっている。個々によりTVやラジオの持ち込みや家族さまとの写真を見えるところに飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全に過ごせる事を心掛け日時が分かるように目線に合わせてカレンダーや時計をを設置したり居室内では家具の配置など身体の状態に合わせて自立した生活を送れるような環境作りを行っている。		